

デジタルイノベーションに関する国際会議を開催

▼決済機構局では、十月四日から五日にかけて、国際決済銀行（BIS）との共催で「CPMI（注）Workshop on Digital Innovations: Money in the Digital Age」と題する金融イノベーションに関する国際会議を開催しました。参加者は、主要先進国のほかアジア・ラテンアメリカを含む約二五カ国から



会合の様子（撮影：野瀬勝一）

五〇名以上に上りました。

▼会議の冒頭、黒田東彦^{はるひこ}総裁が挨拶を行い、金融イノベーションを経済厚生の上につなげていくために、金融機関やIT企業、公的部門など、多様な主体が協力していくことの重要性などが強調されました。

黒田総裁の挨拶は、「日銀HPの「決済・市場」→「決済・市場」に関連する講演・挨拶等の一覧」のコーナーをご覧ください。

▼その後のパネルディスカッションでは、デジタル通貨をはじめとする金融イノベーションが社会に与えるインパクトや課題といった論点について、活



冒頭、挨拶をする黒田総裁（撮影：野瀬勝一）



国際的な議論をリードする山岡局長(左)と小早川参事役(右)
(撮影：野瀬勝一)

発な議論が交わされました。この中では、日本銀行と欧州中央銀行（ECB）が共同で行っている分散型台帳技術に関する調査「プロジェクト・ステラ（Project Stella）」の内容も紹介されました（日銀HPでも九月六日に報告書を公表しています）。また、初日には、中央銀行に加え学界や民間セクターの参加者からもプレゼンテーションが行われました。

▼デジタルイノベーションを



プロジェクト・ステラに関するプレゼンテーションの様

巡っては、各国中央銀行における取り組みや国際的な議論がますます活発化しています。日本銀行としても、引き続きこうした議論に積極的に貢献していきたいと考えています。

（注）CPMIは、BIS傘下の決済・市場インフラ委員会（Committee on Payments and Market Infrastructures）。決済・市場インフラ分野において、中央銀行間の協調を促進するとともに、国際的な基準設定を行うフォーラムを開催。日本銀行もメンバーとなっています。

旧小樽支店金融資料館では特別展を開催中

二〇一八年二月二十日(火)まで

▼旧小樽支店金融資料館では特別展「たてものいろいろ ―お札に描かれた建物・建築家―」を開催しています。

建築家・辰野金吾や長野宇平治らの設計による建物が魅力の旧小樽支店金融資料館。その館内で、さまざまな建物が描かれた世界各国の紙幣約九〇点を紹介しています。

ギユスターヴ・エッフェル(一八三二〜一九二三)とエッフェル塔(フランス)のように建築家とその建築家の設計した建物が描かれた紙幣、ピサの斜塔(イタリア)や万里の長城(中国)など世界遺産の建物が描かれた紙幣、議会の建物が描かれた紙幣など、世界のさまざまな建築デザインをご覧いただけます。

また、現在一九カ国で使わ

れている単一通貨ユーロ紙幣は、域内で共通に使われるため、特定の国の建物は避け、欧州の時代と様式をテーマとしています。ギリシャ・ローマ時代の古典期から、ゴシック、ルネサンスや現代までの各時代を代表する建築様式を取り入れた窓、橋などが描かれています。二〇一三年から発行されはじめた新シリーズも展示しています。現実には存在しない建築物のデザインを見ながら、各国の

実在する建物を思い浮かべてお楽しみください。

特別展開催期間中、二〇一八年二月九日(金)〜十八日(日)まで、小樽市内では地元イベント「小樽雪あかりの路」が開催されます。この期間は金融資料館すぐそばの北海道の開拓を支えた鉄道跡(旧手宮線)や小樽運河などを中心に、市内各所が灯されます。降り積もった雪があかりに照らされ広がる幻想的な風景と、歴史を感じさせる

特別展
たてものいろいろ
—お札に描かれた建物・建築家—

開催期間
2017年11月17日(金)
～2018年2月20日(火)

●休館日：水曜日、年末年始(12月29日～1月5日)
●開館時間：4月～11月 9:30～17:00(入館は16:30まで)
12月～3月 10:00～17:00(入館は16:30まで)

日本銀行旧小樽支店 金融資料館 入館無料
北海道小樽市色内1-11-16
TEL. 0134-21-1111
http://www.jbc.or.jp/naara/



雪景色の金融資料館

金融資料館のたたずまいも見どころになります。

金融資料館でも、二〇一八年二月九日(金)〜十一日(日)、十七日(土)の四日間は開館時間を午後七時まで延長します。皆さまのご来場をお待ちしております。

【入館料】無料

【休館日】水曜日、年末年始

(二〇一七年十二月二十九日(金)～二〇一八年一月五日(金))

編集後記

■日本銀行の宮野谷理事は、点描画の創作に取り組んでおり、11月下旬に上野・東京都美術館で開催された美術展に作品を出展しました。私もこっそりと観賞に訪れましたが、なんとそれは、「伊根の舟屋群」というタイトルの優しい静寂が伝わってくる美しい作品でした。本号の地域の底力は「海の京都」丹後地方、その扉ページの写真は伊根町・舟屋群の夜景です。この偶然の一致に驚きました。理事によると、大阪支店長時代にこの美しい風景に出会い「日本の原風景が地元の人々の努力により維持されていることに感銘を受けた」とのこと。今回の地域の底力では、さらに新展開する丹後地方の今をお届けします。さて、本誌2006年第5号から始まった「地域の底力」について、2016年第48号までを取りまとめ「にちぎん別冊 地域の底力」を11月下旬に発刊しました。印刷部数に限りがあるため、全国の地方自治体や図書館等にお送りして皆様の閲覧に供することにしました。この10年超の地方創生の進化を、マイクロベースで振り返ることにお役に立てれば幸いです。(鶴海)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。
(http://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (<http://www.boj.or.jp/>) をご覧ください。

にちぎん 2017年冬号
編集・発行人 鶴海誠一
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎03-3277-2405



デザイン 株式会社市川事務所
印刷 文唱堂印刷株式会社
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

【開館時間】

午前10時～午後5時

【開館時間延長日】

二〇一八年二月九日(金)～
十一日(日)、十七日(土)は
午後七時まで開館します。※最新の情報は金融資料館HP
をご覧ください。

【所在地】

北海道小樽市色内1-1-16

【お問い合わせ先】

金融資料館

〇三三四―二二―二二



広報誌「にちぎん」の 「別冊」を発刊しました

本誌掲載の役員と各界の第一人者との対談「守・破・創」と「地域の底力」の二〇一六年冬号(四八号)までの記事を各々一冊にまとめた「別冊」を、十一月二十七日に発刊しました。全国の図書館等にお配りしておりますので、ぜひご覧ください。

【お詫びと訂正】

本誌五一号(九月二十五日発行)の「日本銀行のレポートから1」に掲載された「地域経済報告」(さくらレポート)―二〇一七年七月―の一部に誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

■二四ページ図表

女性の活躍推進に向けた取り組みと、わが国経済の成長力への影響

(誤) 人出不足
(正) 人手不足